Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-15

ひとと生まれて人間となる ： 糸賀一雄からのメッセージ

渡部，昭男

(Citation)
神戸大学附属特別支援学校第25回障害児教育研究協議会

(Issue Date)
2021-11-20

(Resource Type)
conference object

(Version)
Accepted Manuscript

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90008817

第25回障害児教育研究協議会／神戸大学附属特別支援学校
全体会
2021年11月20日（土）：オンライン講演

ひとと生まれて人間となる
～糸賀一雄からのメッセージ～

渡部昭男
（わたなべあきお）
神戸大学大学院人間発達環境学研究科名誉客員教授
／鳥取大学名誉教授

講演の構成

- 第Ⅰ部：糸賀一雄を育んだ幼少期～青年期
- @山陰（米子・鳥取・松江）への想い

- 第Ⅱ部：福祉の思想
- ～この子らを世の光に、
- 人格発達の権利の徹底的保障、
- 横（軸）の発達～
- @1968『福祉の思想』NHKブックス

- 第Ⅲ部：ひとと生まれて人間となる
- ～糸賀一雄からのメッセージ～
- @糸賀一雄研究の新展開

2014年＆生誕百年

- 2014年：障害者権利条約の批准(1/20)発効(2/19)
- 養護学校教育の義務制実施35年(1979)

  滋賀県 近江学園68年(1946)、鳥取県 皆成学園63年(倉吉移転1951)
  発達保障53年(1961)、滋賀県 びわこ学園51年(1963)

生誕百年：太宰　治(1909－1948)「斜陽」「人間失格」
岡本太郎(1911－1996)「太陽の塔」「芸術は爆発だ」
日野原重明(1911－)朝日新聞「〇歳・私の証あるがまま行く」
東井義雄(1912－1991)「村を育てる学力」
織田作之助(1913－1947)「夫婦善哉」
新美南吉(1913－1948)「ごん狐」
植田正治(1913－2000)写真家「植田調」
糸賀一雄(1914－1968)「この子らを世の光に」
トーベ・ヤンソン(1914－2001)「ムーミン」
水木しげる(1922－)「ゲゲゲの鬼太郎」

幼少期は米子／思春期・青年期は鳥取

糸賀姓は島根県に多い／筆名は「因幡一碧」

・1914(T3).3.29　鳥取市立川町に生まれる

*100年前、糸賀が幼少年期を過ごした大正時代の米子町

*中海が近く秀峰大山も見える

大正14年の米子町

（高谷清『異質の光』pp.9-10）

この頃、郊外の法勝寺から米子までの電車が伯陽電鉄によって計画され、工事が始まった。…

1923年、4年生の9月に、ふたたび鳥取市に転居した。

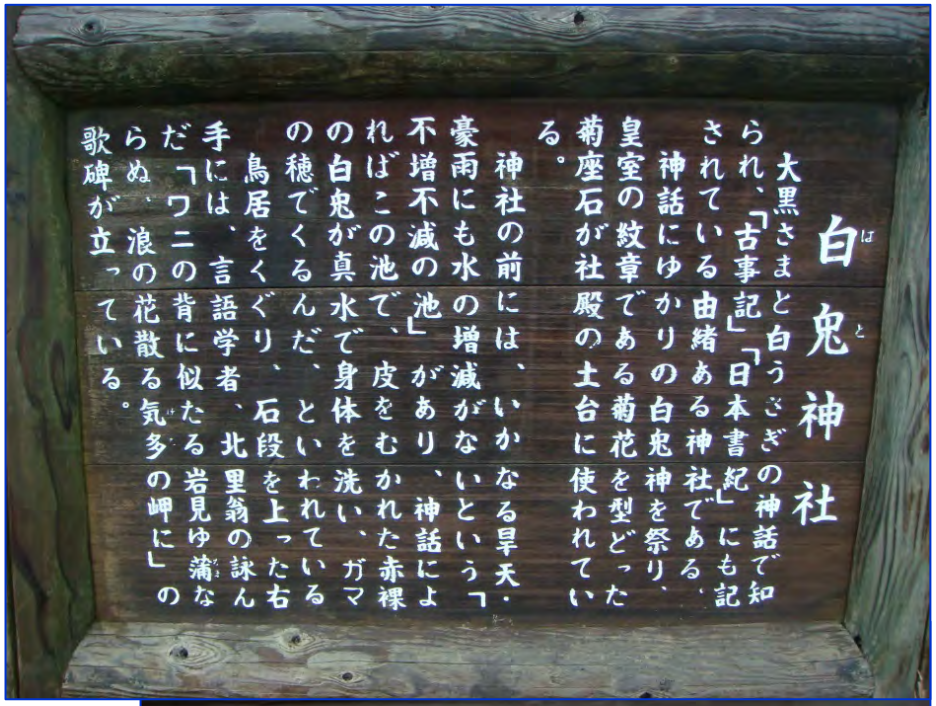
*日進尋常小学校

⇒県立第二中学校

⇒旧制松江高等学校

「因幡の白兎」の神話と伝承－医療発祥の地－

（写真撮影：渡部昭男）



白兎神社

大黒さまと白うさぎの神話で知られ、「古事記」「日本書紀」にも記されている由緒ある神社である。

神話にゆかりの白兎神を祭り、皇室の紋章である菊花を型どった菊座石が社殿の土台に使われている。

神社の前には、いかなる旱天・豪雨にも水の増減がないという「不増不減の池」があり、神話によればこの池で、皮をむかれた赤裸の白兎が真水で身体を洗い、ガマの穂でくるんだ、といわれている

鳥居をくぐり、石段を上った右手には、言語学者、北里翁の詠んだ「ワニの背に似たる岩見ゆ蒲なら ぬ、浪の花散る気多の岬に」の歌碑が立っている。

日本医療発祥の地

な神社である。

古事記に日く淤岐ノ島に流された兎海の和邇を欺きて気多之前まで渡らむとせしが欺きを知りたる和邇により悉く衣服を剝がれ泣き悲しむ兎に八十神の命もちて海塩を浴みて風に当り伏せれば前にも増して痛みはげしく、ここに大穴牟遅神（大国主命）その兎に教へたまはく「今急くこの水門に往きて水もて汝が身を洗ひて、水門の蒲黄を取りて敷き散らしその上に輾転てば汝が身、本の膚の如必ず差えなむものぞ」と教へたまひき。かれ教の如せしかば、その身もとの如くなりき。……

日本医療の発祥の地であり古来病気傷痍に霊験あらたかな神様である。

尚、大国主命と八上姫との縁を取りもたれた

因幡一碧：砂丘沖に広がる一面の碧い海と空

（髙谷清『異質の光』p.162）
糸賀は，筆名を「因幡一碧」と名づけるほど生まれ故郷に愛着をもち，口にのせる歌も山陰地方の民謡が多かった・・・

鳥取二中4期生卒業アルバムから

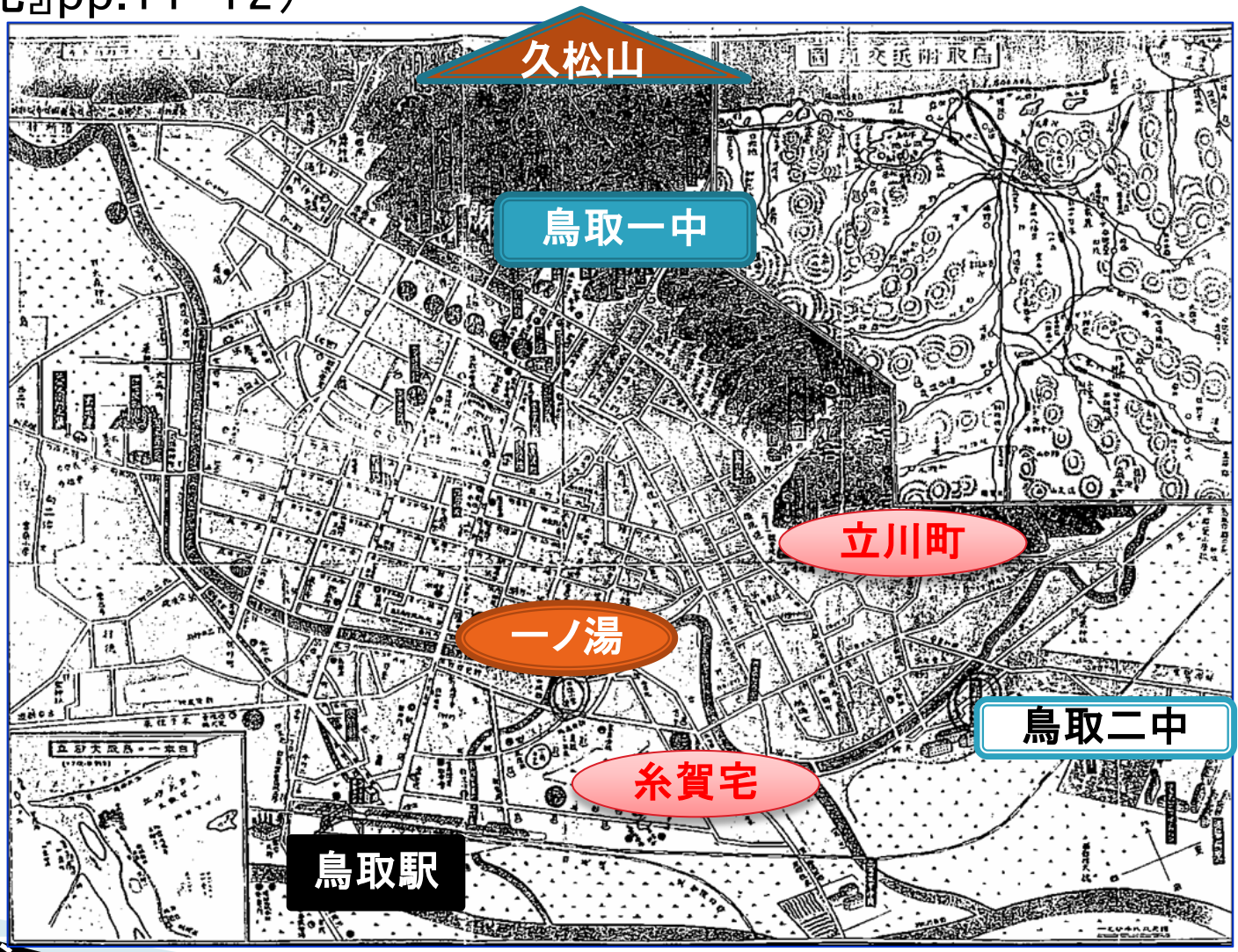
城の一中・自由(田舎)の二中:

*思春期・青年期を過ごした戦前の鳥取市
（髙谷『異質の光』pp.11–12）

糸賀はよく「一ノ湯」へ遊びに行くようになり・・・中島といっしょに勉強をした。

・1926年4月鳥取県立第二中学校進学

自由快活にして師弟一体の学園、理想と覇気のある学校



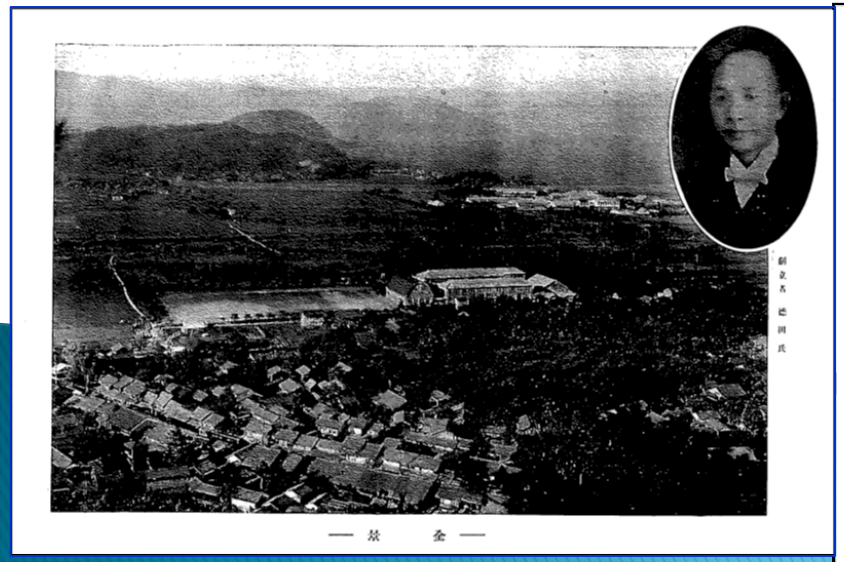
旧制松江高等学校：（四進五修）1930年4月

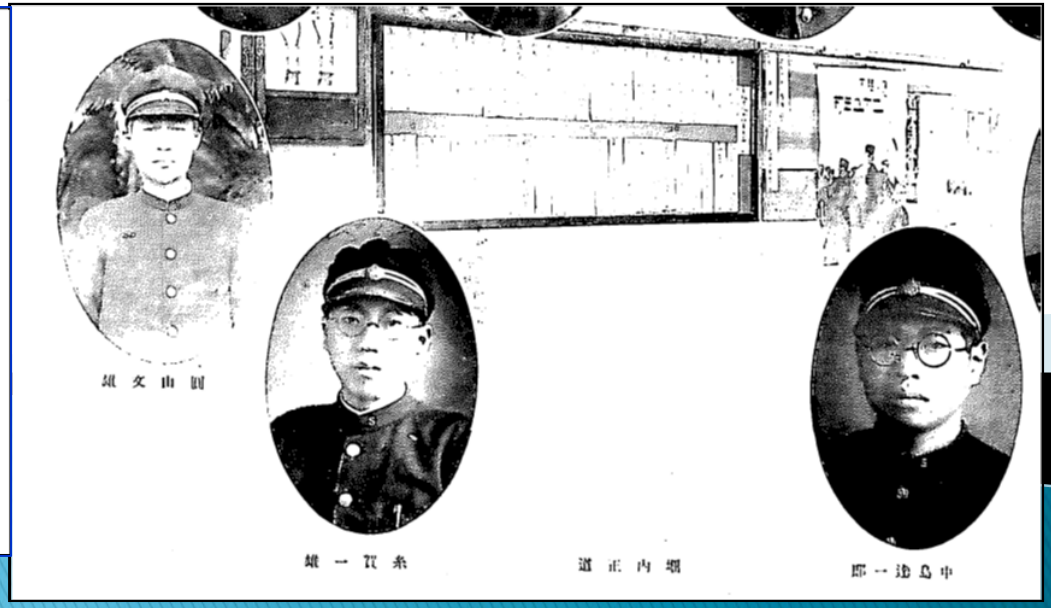
（髙谷『異質の光』p.21）

（･･･この年、4年生から9人が高等学校へ進学した。）圓山は兄のあとを追って愛媛県松山高等学校へ、**糸賀もまた医者になる希望をもって島根県松江高等学校理科甲類（甲類は英語専攻、乙類はドイツ語専攻）へ進学**した。

（三人組と呼ばれた糸賀一雄・中島達一郎：理科甲類、小倉親雄：文科乙類）

卒業アルバム↓　進学した9名：圓山・糸賀・中島ら





休学・受洗・教会活動・文転

（髙谷『異質の光』「信仰、そして志望の変更」pp.30-34）

1930～31年（1～2年生）：途中で結核による1年間の休学

1932年（18歳）9/18：日本基督教連盟鳥取教会で洗礼を受ける

*松江北堀教会所属

1933年～「信仰録」手記5篇、高校のYMCAでリーダー

1934年：教会機関誌『城北の燈』編集者、原稿4篇・編輯後記

*人間の魂を救うことこそが自分がなすべきこと⇒文転

［鳥取教会HPより説明文と写真］鳥取教会は1890（明治23）年2月に独立（創立）したプロテスタントの教会で、鳥取県庁の近くにある。＊現在は戦後に建替えられたもので、糸賀が通った当時のものではない。

松江北堀教会↓（川内紀世美コラム『糸賀一雄研究の新展開』2021）　↓鳥取教会（HPより）

写真：1980年頃の旧会堂（糸賀一雄が通った当時のたたずまいを残していた）

京都帝国大学文学部哲学科：1935年4月入学

（髙谷『異質の光』「出会い」pp.34-42）

1934年夏：日本基督教会の中国地方夏季修養会

広島県福山市～円照寺の檀家総代の小迫家に宿泊

（p.40）糸賀は松江に帰ってから、すぐにお礼の手紙をだした。

／房も返事を書いた。そうすると手紙の来る間隔が詰まり、やがて毎日手紙が届くようになった。多いときは･･･

信仰一筋の人で理屈っぽく、また情熱家だと改めて思った。

（pp.44-45）

糸賀と房は、1936年2月11日、

広島県福山教会で･･･小さな結婚式を挙げた。

（直後の3月圓山が山で遭難死）

糸賀一雄と故郷（鳥取・松江・山陰）について更に知りたい方は

①鳥取県2014：糸賀一雄　ミットレーベン　故郷・鳥取での最後の講義（鳥取県立図書館／冊子に加えて1968.2講演の肉声録音が復刻され貸出可能）

②國本真吾2021：第5章　糸賀思想を「ミットレーベン」への思いから読み解く－故郷の地・鳥取での足跡を辿りながら－

③川内紀世美2021：コラム1　糸賀一雄の「魂のふるさと」松江

②③は『糸賀一雄研究の新展開』三学出版2021所収

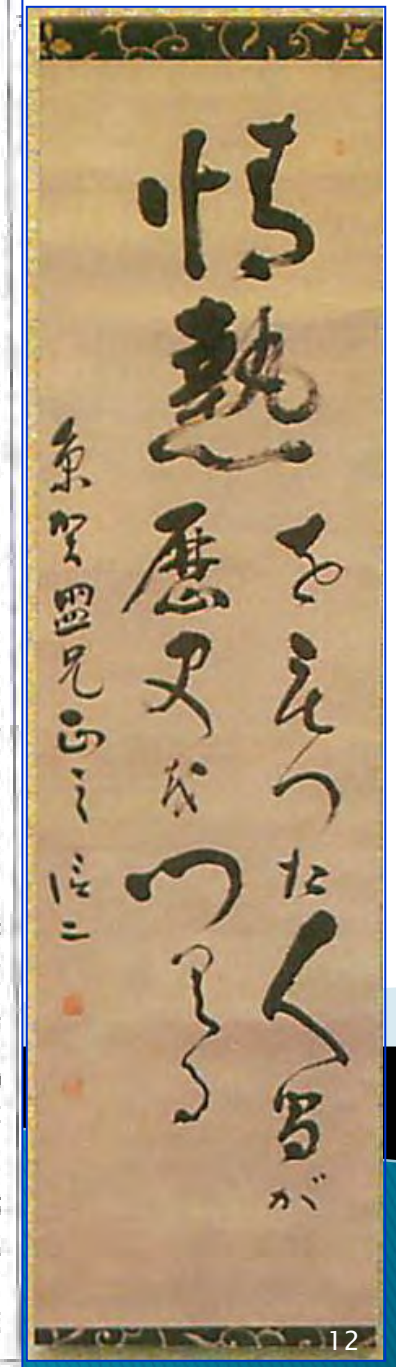
糸賀の故郷への想い

情熱をもった人間が
歴史をつくる

鳥取県立図書館所蔵（書軸の写真は図書館HPより）
元国鉄総裁　十河信二の揮毫
（髙谷清『異質の光』p.99十河との出会い）
*糸賀記念会1989『追想集糸賀一雄』
（PDFは十河信二「序文」pp.1–3より）
*糸賀家＆滋賀県の宝物が何故鳥取に
県立図書館開館1周年記念「糸賀一雄顕彰展」2002
に際して糸賀家・近江学園から寄贈
（渡部昭男2014「糸賀一雄と故郷鳥取」
『糸賀一雄生誕100年記念論文集』）

「（糸賀が）鳥取に望郷の想いをもっていたことを何らかの形で表したい」「高校生くらいの若い人たちの励ましになるようなものを記念に差し上げたい」糸賀夫人房さん

いつか、彼にたわれて、「情熱をもった人間が歴史をつくる」と書いておくったことがあります。歴史をつくるものは情熱と勇気だ、君はそう考えているんだろう。正しく君は勇気があり、情熱があって、個と全とを一体にし、融合することを心掛け、また実現している。それが君の最も秀でたところである――こう僕は考え、願って書きおくったのであります。僕が彼について一番立派だと感心するところは、彼が、彼の個人生活と彼の国家的理想というものを一体にしていることであったからです。



糸賀の思想を継承し広める「あいサポート」運動
バッジの制定2009年11/28と鳥取からの運動発信

障がいのある方を支える「心」を2つのハートを重ねることで表現しました。後ろの白いハートは障がいのある方を支える様子を表すとともに、「supporter（サポーター）」の「S」を表現しています。**ベースとしている「橙色（だいだいいろ）」は、鳥取県出身で日本の障がい福祉に尽力された糸賀一雄氏の残した「この子らを世の光に」という言葉の「光」や、「暖かさ」をイメージしています。**また、「だいだい（代々）」にちなみ、あいサポーターが広がって、共生社会の実現が達成される期待も込められています。

（鳥取県HP「障がい福祉課」サイトより）

講演の構成

- 第Ⅰ部：糸賀一雄を育んだ幼少期～青年期
- ＠山陰（米子・鳥取・松江）への想い
- **第Ⅱ部：福祉の思想**
- **～この子らを世の光に、**
- **人格発達の権利の徹底的保障、**
- **横（軸）の発達～**
- **＠1968『福祉の思想』NHKブックス**
- 第Ⅲ部：ひとと生まれて人間となる
- ～糸賀一雄からのメッセージ～
- ＠糸賀一雄研究の新展開

第二衣笠尋常小学校の代用教員

（髙谷『異質の光』「小学校の教員は最上位の教育者」pp.61-63）
1938年：4年女子組の代用教員
池田太郎＆木村素衛（もともり）との出会い
（pp.75-78）

・まず人間というのは善・美・知が欠如しているためそれを求める努力をする存在＝向上愛＝人間性の最高の理念を目指して不断の向上の道を歩んでいる（エロス）

・しかし、人間は絶対的存在でもある。向上的という次元では未完成であっても、その人の存在自身、それぞれの人は他の人と取り替えができないあるがままの姿で存在する。そのことがそのままお互いに肯定されるという存在である＝絶対愛＝現にあるがままの状態において、絶対的に承認し肯定すること（アガペ）

1939年：鳥取第40聯隊、病気により召集解除、木村の紹介で滋賀県へ

京都＆滋賀時代の略歴

1938年（24歳）卒業／第二衣笠尋常小学校代用教員
*池田太郎・木村素衛との出会い
1939年（25歳）鳥取第40聯隊応召／病気召集解除
*ほとんど全員が戦死
1940年（26歳）滋賀県社会教育主事補
1941年 知事官房秘書課長／近藤壌太郎知事の薫陶
*学生義勇軍運動に関係／十河信二の知遇を得る
1942年 三津浜学園に池田太郎を推薦
1943年 石山学園に田村一二を推薦
1945年 終戦／経済部食料課長
1946年 木村急逝／結核再発＠真野浜にて療養
近江学園設立趣意書／11月近江学園創設

病気療養と近江学園創設

- 終戦前後に担当であった滋賀県経済統制課長，食糧課長としての「凄まじい役人勤め」を離れて，結核療養のために琵琶湖畔の真野で静養していた1946年7月，糸賀は迷っていた。
- ・・・・・・時おり欠勤し床にふせている日，私は夢中になって，般若心経茶道弁に読みふけっていた。心血を注いで食糧問題に打ちこんでいる役人生活に深い疑問が起きてくる。私はもう役人はやめたくなっていた。真野に来てから，私は妻と相談して，京都大学の医学部に再入学して，医者としてあと半生をおくろうかとも考えていた。幸い，私は高等学校では理科であったから，できないこともあるまい。私はまだ33歳なのだから・・・・・・
- （糸賀一雄1965『この子らを世の光に』（『糸賀一雄著作集Ⅰ』1982所収，pp.13-172）p.17）

このタイミングにおいて、池田太郎と田村一二が訪ねてきて、「精神薄弱児と戦災孤児の綜合学園としての近江学園の設立」を糸賀に打診

- ……自分がこの事業にのり出すとすれば，それは，一生の問題でなければならない。そして，一生つづく情熱の問題でなければならない。情熱は収容の対象である子ども達に対して，そしてこの事業そのものに対して，さらに祖国再建への最も具体的な道であるとするこの事業に対する信念が問題である。自分は静かに考えさせられた。（p.16）
- ……かくして自分は一転機を試みねばならなくなっているのではないか。病気そのものが，自分に自己反省せしむる機縁となった。そしてほのかに新しい進路が開かれんとしつつある。祈るがごとき心地をもって，そして，あくまで冷厳なる批判の精神をもって，さらに燃ゆるがごとき情熱の中に，その熱気に身を焼かれながら，自分はこの人生における大いなる転機を考えているのである。（p.16）
- ……おおげさだが，ちょうど，初代キリスト教徒が，あの迫害の中で敢然として信仰の表白に身を挺したごとく，私は自分の心の中に，子どもたちへの愛を通じて，神への，キリストへの信仰が漸く感じられようとしているのである。久しく忘れていた神のこと，キリストのこと，私は私なりに復活しようとしている。私は信仰をえて，しかる後，愛の事業に突進するのではない。私を推進せしめるものは，只私の身内に湧出する情熱である。しかもこの情熱は何処より来たり，何処へ連れゆかんとするのであろうか。私はそれを説明することはできない。（p.19）

福祉の思想

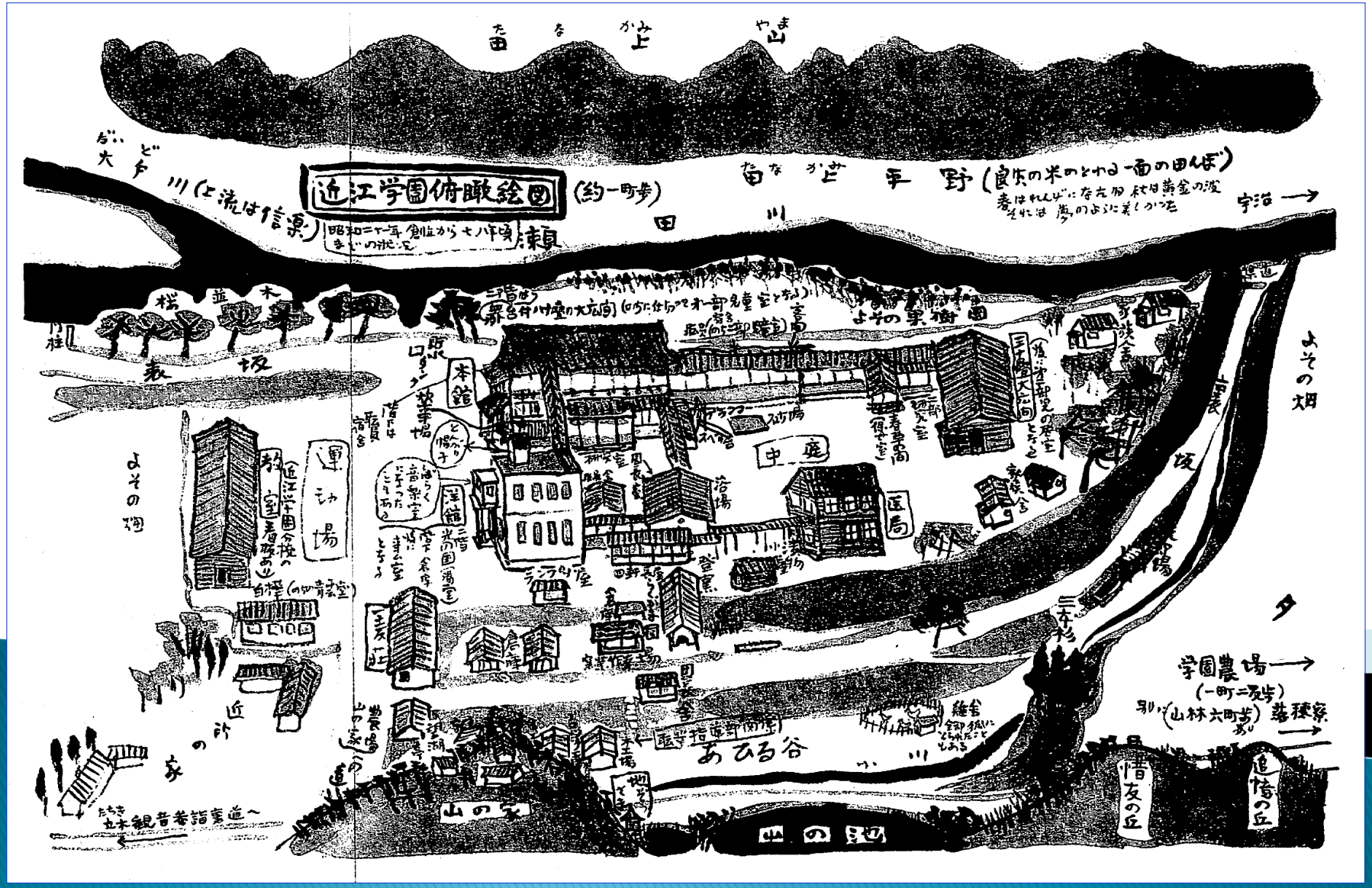
糸賀一雄1968『福祉の思想』日本放送出版協会

①[pp.9–16] はじめに

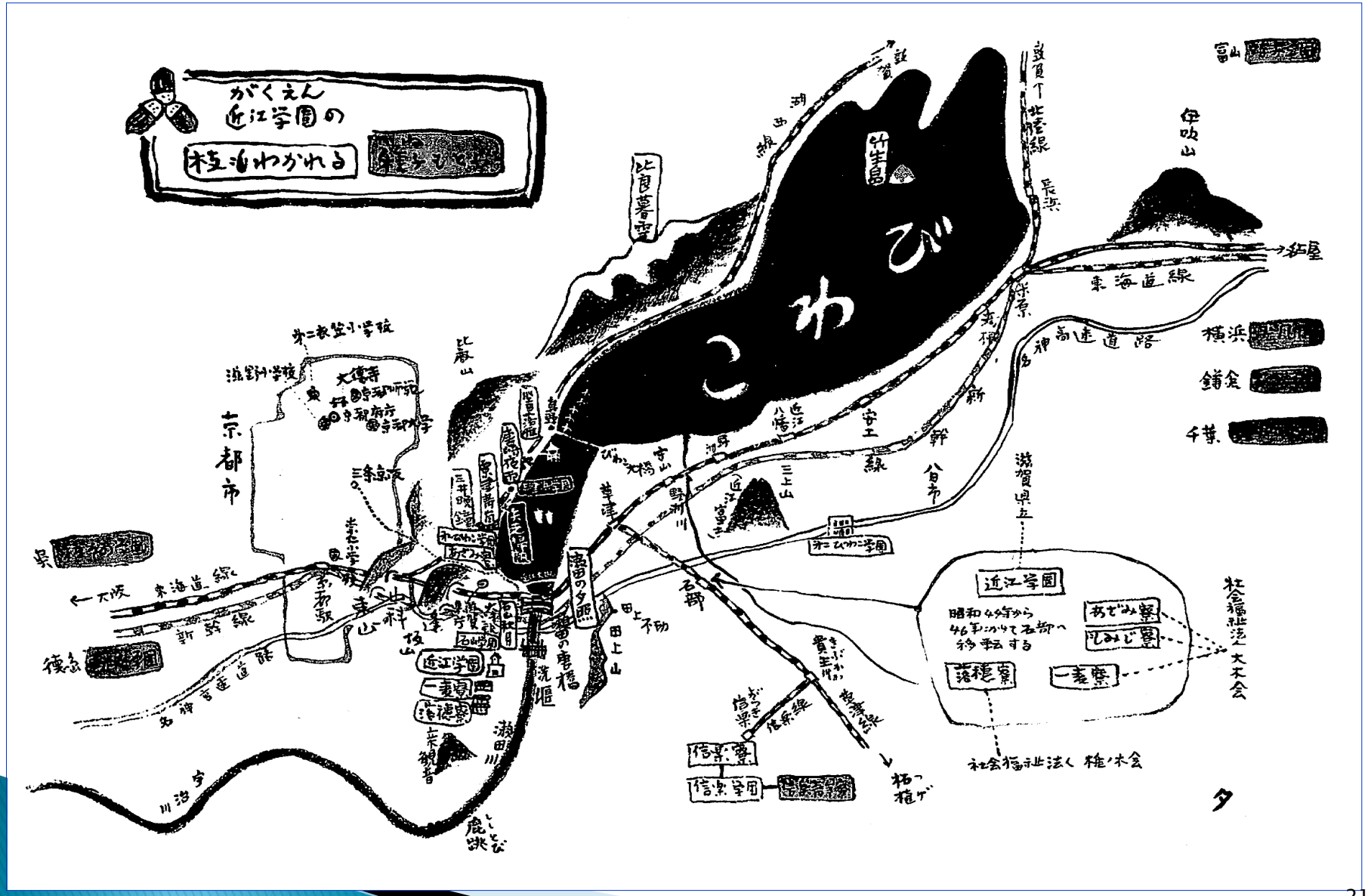
p.9 自分がそのなかでもがき悩み、そしてささやかでも進展の方向で戦ってきたと思う具体的な社会福祉の問題というのは、近江学園という歴史的な存在についてであった。

p.10 人間の新しい価値観の創造をめざすといった歴史的な戦いの一環･･･私たち自身のこの子たちをみる目の変革･･･見方に変遷

近江学園鳥瞰図 糸賀一雄著作集Ⅰ1982より



近江学園からの展開～枝も分かれる　糸賀一雄著作集Ⅰ1982より



福祉の思想

②[pp.17-53] 1. 精神薄弱といわれる人びと

37 社会自体の内面的な変化であり、進歩であり、むしろ教育的革命と呼んでもよい･･･

52 一隅をまじめに照らす･･･その実践が深く世界に通じ、歴史につながった生き方になる

③[pp.55-80] 2. 社会福祉の基本

64 このひとたちが、じつは私たちと少しもかわらない存在であって、その生命の尊厳と自由な自己実現を願っており、うまれてきた生き甲斐を求めていることを友愛的に共感して、それが本当の社会の常識となることへの道行が「福祉」の内容となるのである。

福祉の思想

④[pp.81-101] 3. 権利思想の形成
⑤[pp.103-128] 4. 障害者の生きがい
107 すべてのひとはひとと生まれてひととなるという、万人に共通な発達の道行きを歩む。
116-117 生きる屍･･･と思われていた。しかし、そうではなかったのである。
⑥[pp.129-150] 5. 精神薄弱者の施設における「療育」について
133-137 1946年～医局→1948年木造二階建→1953年「杉の子組」療護の集団
144-145 不治永患→療育、すなわち専門的な治療と教育（びわこ学園）
148 施設養護では、特に集団生活のなかで子どもの人格の発達が追求される
その実践の記録こそが貴い･･･同時に職員の不断の人格形成･･･

福祉の思想

⑦[pp.151–166] 6. 重症心身障害児の対策

153 既に[昭和]34[1959]年2月には、びわこ学園建設の計画がたっていた　（→1963年開園）

159 療育態勢やその技術を後退させないために、借金をしながら歯をくいしばって運転。

160 私たちはその･･･科学的、思想的根拠として、発達保障という考えをみがいてきた。

療育記録映画
「夜明け前の子どもたち」
1968年完成・全国上映
リーフレット

福祉の思想

⑧[pp.167-188] 7. 発達保障の考え方

172 重症児･･･すべての人の発達保障の思想と基盤と方法が生まれてくる

175「人間」という抽象的な概念でなく、「この子」という生きた生命、個性のあるこの子･･･ （渡部：この子・らを・世の光に）

176 保護という名の飼い殺しではなく →ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ →ﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ(人間としての形成)

177 だれととりかえることもできない個性的な自己実現･･･その自己実現こそが創造であり、生産である･･･「この子らを世の光に」･･･人格発達の権利を徹底的に保障･･･

･･･貧しい狭い人格ではなく、豊かなあたたかい人間に育てたい。三歳の精神発達でとまっているように見えるひとも、その三歳という発達段階の中身が無限に豊かに充実していく生きかたがあると思う。･･･そういうことが可能になるような制度や体制や技術をととのえなければならない。そのための一歩の実践こそが、すべての教育の共通の問題･･･

福祉の思想

⑨[pp.189-244] 8. 地域福祉のなかで

232 地域の具体的な要望や必要を専門的に吟味し、調整し、いわゆるソーシャル・アクション（社会的活動）・・・として、切実な世論にまで成長させるという方向づけ・・・。

232 福祉の思想が地域に根づくということは容易なことではない。

232 社会連帯感が育つように、具体的な問題とのとり組みが始められなければならない。

244 住民のニードを自分のものとして感じ、うけとめ、しかもそれを整理して、もういちど住民すべての自覚的なものとするための専門家がいてほしい。

「ヨコへの発達」など糸賀一雄の思想と実践について更に知りたい方は

①垂髪あかり2020：〈ヨコへの発達〉とは何か（日本標準ﾌﾞｯｸﾚｯﾄ23）
②蜂谷俊隆2021：第2章　糸賀一雄の生涯と思想
③垂髪あかり2021：第3章　－重症心身障害児者への「本人理解」のあゆみ
④門前斐紀2021：第4章　－木村素衛「形成（性）」と糸賀一雄「生産（性）」
⑤遠藤六朗2021：第8章　－糸賀一雄「生命思想」を出発点として
⑥中野リン2021：第13章　糸賀一雄の思想とマーサ・C・ヌスバウムの可能力アプローチ

②～⑥は『糸賀一雄研究の新展開』三学出版2021所収

講演の構成

- 第Ⅰ部：糸賀一雄を育んだ幼少期～青年期
- ＠山陰（米子・鳥取・松江）への想い
- 第Ⅱ部：福祉の思想
- ～この子らを世の光に、
- 人格発達の権利の徹底的保障、
- 横（軸）の発達～
- ＠1968『福祉の思想』NHKブックス
- **第Ⅲ部：ひとと生まれて人間となる**
- **～糸賀一雄からのメッセージ～**
- **＠糸賀一雄研究の新展開**

文明と社会の発展　バトンを受けて次へ渡す

- **段階１**：近世までの子育て（教育福祉を含む）は村落共同体で共同的に営まれてきたが，社会全体の豊かさや科学技術水準の発展度合いから，障害児の養育にはかなりの限界があった。
- **段階２**：近現代化過程における村落共同体の崩壊傾向とともに，共同的な子育て機能も弱体化していく。一方で国民国家的な学校教育が制度化されていくが，障害児は対象外におかれて家庭に放置される。これに救いの手を差し伸べたのが，社会（社会福祉）事業・児童保護（児童福祉）事業であった。
- **段階３**：戦後、福祉領域においては障害児の成長発達を促す教育的機能，治療的機能を併せ持った療育実践が開発されていく。こうした先導的な営みの蓄積により，どのように重い障害児にも発達及び教育の可能性のあることが事実として裏付けられ，全員就学の実現へと向かう。しかし，障害児に係る専門性は特定の福祉施設・病院や学校で提供され，結果として居住地域から遊離した「特殊」「分離」方式に留まった。
- ↓糸賀一雄の思想と実践
- **段階４**：20世紀末～21世紀社会全体の豊かさや科学技術水準の進展もあって，特定の機関内に限定されない形での専門性の提供，すなわち病院・施設・学校をオープン化し，在宅利用を含む地域医療，地域福祉，地域教育などが可能になってきた。ノーマライゼーションやインクルージョンの思潮の広がりもあって，共に地域で育ち，学び，働き，生活する志向性が高まっている。崩壊したかに見えた共同体が，誰もが尊重され共生する地域社会として新たに創られる展望が生まれつつある。

日本国憲法：その能力に応じて（26条）

・宮澤俊義1955『日本国憲法コンメンタール篇』日本評論新社　pp.267–268

・・・教育を受けるに必要な能力（学力・健康など）によって差別されるのは当然・・・

・糸賀自身も、「問題児」「永遠の幼児」「沈殿者」の問題に行き当っていた

⇒「特別な保護の環境を社会が整えてやって／

ほとんど無自覚な彼らが安心して遊び暮らせるようにする以外／

解決の方法はないと言っても過言ではありますまい・・・

（糸賀一雄著作集Ⅰ1982　p.400）

事情磨錬：NHKスペシャル・ラストメッセージ第6集2007

・糸賀は最初から「この子らを世の光に」「人格発達の権利の徹底的保障」「横（軸）の発達」と考えていたのではない

・事情磨錬（じじょうまれん）陽明学の教え

行動や実践を通して知識や精神を鍛え上げること

⇒自らとの対決を経て限定的な能力観を転換

・1960–61年：ヨーロッパ視察、1961年：近江学園年報において「発達保障」の提起、1963年：びわこ学園創設、1965年：一次元の子どもたち、1967–68年：夜明け前の子どもたち

・1968年：9/17滋賀県児童福祉施設等新任職員研修会「施設における人間関係」

『糸賀一雄の最後の講義―愛と共感の教育―（改訂版）』（中川書店2009）

「この子らを世の光に」・・・の言葉を遺して倒れ翌日逝去

～糸賀一雄からのメッセージ～

「ひとと生まれて人間となる」

講義用メモ『糸賀一雄の最後の講義』pp.72-76

講演タイトル：施設における人間関係

76 1.収容施設の時代的特質

75 2.療育における人間関係

(1)療育について

74 (2)人間関係について

①一般的に

i) 本来ひとは社会的存在である

ii) ひとはひととうまれてひととなる

iii)愛情の育ち、教育愛への高まり

・教育の底にあるもの／・無罪の七施

iv)この子らを世の光に

・「を」と「に」のちがいについて

ひとと生まれて人間となる

38-39　人は人と生まれて人間となると、私はそう思います。この場合の人というのは、個体の人です。個体の人が人と生まれて、そして人間となっていく。

英訳（中野リン・根岸華子2018：Education with Love and Empathy: The Last Lecture of Kazuo Itoga）
http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81010166.pdf

49 ・・・my view is that we are “born as persons and become human” [hito to umarete ningen to naru]. What I mean is that we are born as individuals and eventually become human beings.

つづき

41 ･･･人間が人と生まれて人間となる。それは本来社会的な存在であると、こう言いますけれども、その社会的な存在になっていく道行というものを私たちは問題にしなければならない。これを教育というのです。

50 However to say that we are born as persons and become human means that we are born possessing a social existence but we have to tackle the problem of this social existence. This is the role of education.

つづき

41　人と生まれて人間となる。人間というのは、人と人の間柄と書くんです。･･･単なる個体ではありません。よく私たちは人間人間と言いますけれども、それは社会的存在であるということを意味しておる。関係的存在であるということを意味しておる。人間関係こそが人間の存在の根拠なんだということ、間柄をもっているということに、人間の存在の理由があるんだということです。

50　We are born as persons and become human. The word “human being” is written with the Chinese characters meaning “between people.” It does not refer to one person alone. It refers to having a social existence. Human relationships form the basis of our humanity which means that relationships are the reason for our existence. So having a social existence attests that we are becoming human beings. To live means that we live as social beings.

つづき　＆　共感の世界

41・・・人と生まれて人間となる、なるということは、社会的存在であることを証明していくことになるということなんですね。一生涯というものは、私が生きているということは、生きるということは、本当に社会的な存在として生きるということなんです。生きることに努めなければならない。

42　そういう人と人との間柄というものが、この共感の世界であることは申すまでもありませんね。自分だけのエゴイズムの、自分さえ存在すればいいという考え方ではないはずですね。

50　It goes without saying that relationships between persons brings us to the world of empathy. In this world there is no room for the egoism of the self, or the thinking that it is fine as long as I alone exist.

共感の世界　つづき

45・・・重症心身障害とか、精神薄弱とか言われる人々と、そして私たちとが実は根が一つだという、本当に発達観から見ても根っこが一つなんだという共感の世界を、理屈ですよ、理屈の上でもせめて共感の世界というものの根拠があるということを、私たちは知りたいと思います。

50・・・we are basically the same as those people with mental retardation or with mental and physical disabilities. I am interested to know more about the world of empathy that emerges from the fact that disabled and nondisabled people share the same origins. We can see these shared origins when considering human growth from the developmental perspective. Rationally as well we can see that shared origins form the basis of the world of empathy.

愛の育ち

45　ただ、それは本当に共感できるかどうかは年季がかかります。長い年月をかけてね。年月をかけて、その人間的愛情がです、教育愛に高まっていくというのには年季がかかります。年月がかかりますけれども、人間的な愛情というものがだんだんと昇華されていきます。そして、やがて私たちは本当の愛というものをね･･･

50 Growth of Love

The ability to truly empathize requires time. It takes years for human affection based on interaction with others to rise to the level of educational love. Although it may take many years, human love gradually emerges. And eventually real love in our hearts – for humanity and for ourselves – develops.

つづき

46・・・私は今理屈を言っているんです。みなさんとともに、その理屈が理屈でなくて、自部の本当の心の動きにまで、何年かかってもいいではありませんか。もう、その道行というものは、目標というものははっきりしているんだから、何年かかってもいいから、あわてず急がずに、本当にわが心の中に愛を育てていきたいと思います。

51 I have been talking about the nurturance of love and rising to the level of educational love. Let me talk about rationality now. With or without rationality, true love develops in our hearts. It may take many years. Because the road and target are clear, and because it may take many years, we truly want to grow love in our hearts without any rush or hurry.

つづき

46愛というものはね、育つものです。愛がもともとあるから育つのです。愛は、どこからかお金で買ってきたようなもんじゃないんです。どこかからくっつくものでもないんです。しかし、愛が育つためには、愛とか憎しみとかいう愛憎のなかの愛情というものが、まず育ってこなければなりません。

51Love is something that grows. It grows because it originally occurs within us. Love is not something that can be purchased with money. Love is not something that sticks to you without your knowledge. However, for true love to grow, feelings of love that exist in the complex feelings of “love and hate” must grow first.

最新刊「糸賀一雄研究の新展開」

渡部・國本・垂髪編/三学出版2021

特設サイト『糸賀一雄研究の新展開』で確認可能

https://sites.google.com/view/itogakenkyubook/home

Information／Guidanceコーナーに諸情報あり

*「糸賀一雄の最後の講義」の外国語訳＝現在4か国語

〇中国語http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81009516.pdf

〇韓国語http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81009517.pdf

〇英　語http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81010166.pdf

〇仏　語http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012935.pdf

英文論考http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90003267.pdf

*ご清聴、有難うございました。

*謝辞：オンライン講演の機会をいただき津田英二校長、並びに神戸大学附属特別支援学校の皆様に感謝を申し上げます